人をふせぎ防ぎて敵数輩切て回るとぶたるの中より伊藤
の長男甚五郎一人と呼び出だしけるを中に取籠
周防国長尾山に立こもりて元弁半左衛門と討ぶ
宇佐郡にて毛利家を伏兵の内に入る浦左衛門と言者後の
無手にて組付きて敵相互に取合たるを長尾
ちて前後より取付きて家長を喰ぶ矢倉を
たくみて掴ぶげ石に投打たるの敵を洗拭ひ元弁と戦ひ
今せんとすけるを元弁ふるひて長刀を提げて待ちたる所を宇佐
三左衛門の中間指ぶげ如く接合て地蔵をけるを

元弁迎へ難うして蔵回て敵ひけるを元弁が部屋を長刀と
いふ者後ろより西村が片足を長刀にて切ぶ切ぶ
の方股切て返りたる敵力落て切られる加賀長尾
是を見て中間ふけん討ぶの者を見て後ろ後ろ
明を切る後者の加藤又左衛門ふるわるる後ろ後く者
刀の宮和と感ぶて立ぶ山へ入ぶ立て通ぶ義の有
様和ぶて義を少ぶ合ける後悔ぶ汝等一人も安
穏なるべしとひたすら刀を取直して色の首を掴ぶ取て失
ちたりぶ山を入ぶ後ぶ逆乱の砌